

持続可能な都市経営「SDGs 未来都市かまくら」の創造

神奈川県鎌倉市（2018年度選定）

1. 地域の特徴と課題及び目標	人口減少・少子高齢化、気候変動や頻発する自然災害、インフラの一斉老朽化等、自治体が直面する厳しい環境下において、経済・社会・環境の三側面の課題解決、相乗効果により、都市の価値・魅力を継続的に高め、持続可能な都市経営の実現をめざす。	2. 関連するゴール 
3. 取組の概要 (三側面をつなぐ統合的取組概要を含む)	市の最上位計画である総合計画（第3次鎌倉市総合計画第4期基本計画）に、自治体SDGsの理念を掲げ、施策体系を構築するための改定を行うとともに、改定作業の過程に市民参画を取り入れ、市民等への普及啓発、計画を実現するための新たな仕組みづくりに取り組む。また、先行プロジェクトである、市内の歴史的建造物である旧村上邸をSDGsショーケースとして保存・活用を図る。	
4. 自治体SDGs推進等に向けた取組 <ul style="list-style-type: none">● SDGsの理念を導入した自治体総合計画の運用<ul style="list-style-type: none">➢ 鎌倉市SDGs推進隊（市内在住・在学の小学1年生～中学3年生が対象）の募集を行い、若年層への啓発活動を行う。➢ SDGsつながりポイント事業として「まちのコイン」を導入し、地域のつながり、SDGsの普及啓発活動を行う。● 歴史的建造物(旧村上邸)の保存・活用<ul style="list-style-type: none">➢ 歴史的建造物を保存するとともに、企業研修所や地域活動スペース等としての利用を通じ、SDGsショーケースとしての活用を図る。● 市民参画手法の構築<ul style="list-style-type: none">➢ 市の政策形成過程に多くの市民の意見を反映させる仕組みとして、従来の対面による市民対話に加え、オンラインプラットフォームを導入している。● マイボトルの利用促進<ul style="list-style-type: none">➢ 神奈川県企業庁と連携し、鎌倉駅西口にウォーターステーションを設置している。	6. 取組成果 <ul style="list-style-type: none">● SDGsの理念を導入した自治体総合計画の運用<ul style="list-style-type: none">➢ 鎌倉市SDGs推進隊 勉強会を3回開催。「地球にやさしい生活を送るヒントを考えてみよう！（エネルギー）」、「地球にやさしい学校給食を考えよう（フードロス）」、「身の回りの商品と世界のつながりを知ろう～フェアトレードって、なあに？～」をテーマに、市職員や専門家による講義とワークショップを実施した。➢ SDGsつながりポイント事業 地域通貨「クルッポ」を通じ、SDGsを身近なものとして体験できる取組を行っている。令和3年度末のユーザー数は6,552人、令和4年度末は13,106人、令和5年度末は17,922人と利用者が年々増加している。● 歴史的建造物（旧村上邸）の保存・活用 建物の保全を図るとともに、企業研修や文化体験、地域住民による利用が図られている。令和5年度中には、県内私立中学校の生徒に対し、古民家を「SDGsを学ぶ場」として活用することの意義について講義を行った。● 市民参画手法の構築 オンラインと対面のワークショップを組み合わせた市民参加型プラットフォーム「Liqid（リグリッド）」を運用している。	
5. 取組推進の工夫 <p>次代の鎌倉市を担う若年層へのSDGs達成に向けた意識付けのため、鎌倉市SDGs推進隊を運営している。また、身近にSDGsを意識してもらうため、スマートフォンアプリであるまちのコインを導入し、SDGsの「自分ごと化」につながるよう運用を行っている。</p>	7. 今後の展開策 <ul style="list-style-type: none">・鎌倉市SDGsつながりポイントについて、事業者による自走化に向けた検討を行う。・旧村上邸のショーケースとしての役割を強化するため、若年層との連携など新たな分野での活用に取り組むとともに、利用環境及び施設運営の拡充を図る。	
8. 他地域への展開状況 （普及効果）	SDGs推進隊の隊員がSDGsの取組について、FMヨコハマで紹介を行った。SDGsつながりポイント事業について、メディアの取材等を多く受け、取組内容について紹介を行った。	

SDGs未来都市進捗状況結果報告シート

2018年度選定

神奈川県鎌倉市

2024年9月

SDGs未来都市計画名

持続可能な都市経営「SDGs未来都市かまくら」の創造

神奈川県鎌倉市 第2期SDGs未来都市計画：計画期間2021年～2023年

(1) 2030年のあるべき姿の実現へ向けた取組の達成状況

No	指標名 ※[]内はゴール・ターゲット番号	当初値	2023年	2030年（目標値）	達成度 （%）	第3期計画（または独自計画）の KPIへの反映状況
1	市内で希望する職場で就労できていると感じる市民の割合 【5.b, 8.2, 8.3, 8.9, 9.2, 9.5】	2019年 47 %	2023年 46.9 %	2025年 51 %	-8%	当初値と目標値を下回ったため、第3期計画において取組達成へ向けた手法を検討し、推進を図る予定である。
2	仕事と生活のバランスがとれていると感じている市民の割合 【8.2, 8.3, 8.9, 9.2, 9.5】	2019年 53 %	2023年 56.3 %	2025年 56 %	109%	目標が達成できており、第3期計画ではKPIを60%（2030年）に更新し、更なる推進を図る予定である。
3	鎌倉市に住み続けたいと思う人の割合 【5.1, 5.4, 5.5, 10.2, 11.7, 17.14, 17.17】	2019年 86.9 %	2023年 90.7 %	2030年 90 %	123%	目標が達成できており、第3期計画ではKPIを94%に見直し更なる推進を図る予定である。
4	多様性を尊重し、支え合う社会（共生社会）が実現していると思う市民の割合【5.1, 5.4, 5.5, 10.2, 11.7】	2019年 52.8 %	2023年 62 %	2025年 70 %	53%	2030年の目標へ向けて順調に進捗しており引き続き第2期計画で進捗を確認していく。
5	「地域におけるコミュニティ活動（自治会・町内会・NPO活動など）が盛んなまち」と感じている市民の割合【5.5, 10.2, 11.7】	2019年 41.6 %	2023年 76.7 %	2030年 72 %	117%	目標が達成できており、第3期計画では市民アンケートの取り方とKPIの見直しを行い、更なる推進を図る予定である。
6	鎌倉市を応援する気持ち（鎌倉市へのふるさと寄附金の額） 【5.1, 5.4, 5.5, 10.2, 11.7, 17.14, 17.17】	2019年 743,442.0 千円	2023年 2,055,233 千円	2030年 1,800,000 千円	124%	目標が達成できており、第3期計画ではKPIを2,500,000千円に見直し更なる推進を図る予定である。
7	豊かな歴史的遺産が大切に保全され、伝統的な文化が保存・継承されているまちだと感じている市民の割合【11.4】	2019年 83 %	2023年 89 %	2025年 85 %	322%	目標が達成できており、第3期計画でも維持向上に向け、進捗を確認していく。
8	豊かな自然や自然的景観を大切に保全するとともに市民がみどりふれあえるよう積極的な活用を図っていると思う市民の割合【11.4, 11.a, 12.8, 13.1, 13.3】	2019年 78.4 %	2023年 83.5 %	2025年 80 %	319%	目標が達成できており、第3期計画でも維持向上に向け、進捗を確認していく。
9	市内のごみの焼却量 【7.2, 11.4, 11.a, 12.5, 12.7, 12.8, 12.b, 13.1, 13.3】	2019年 29,992 トン	2023年 22,484 トン	2025年 15,727 トン	53%	2030年の目標へ向けて順調に進捗しており引き続き第2期計画で進捗を確認していく。
10	リサイクル率【7.2, 11.4, 11.a, 12.5, 12.7, 12.8, 12.b, 13.1, 13.3】	2018年 52.5 %	2023年 - %	2025年 71.7 %	-	KPIが安定的に測れないため、第3期計画では指標から外している。
11	公共建築物の耐震化率（災害時の拠点となる施設）【7.2, 11.4, 11.a, 12.5, 12.7, 12.8, 12.b, 13.1, 13.3】	2019年 96.4 %	2023年 97.6 %	2025年 100 %	33%	2030年の目標へ向けて順調に進捗しており引き続き第2期計画で進捗を確認していく。
12	文化活動が活発であり、新たな文化の創造・発信を行っているまちだと感じている市民の割合【11.4】	2019年 63.2 %	2023年 67.4 %	2025年 69.0 %	72%	2030年の目標へ向けて順調に進捗しており引き続き第2期計画で進捗を確認していく。

(2) 自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況

No	取組名	指標名	当初値	2023年 実績	2023年 目標値	達成度 （%）	第3期計画（または独自計画）の KPIへの反映状況
1	持続可能な都市経営 に向けた取組	市内事業所における従業者数	2016年 68,800 人	2023年 - 人	2023年 69,600 人	-	KPIが安定的に測れないため、第3期計画では指標から外している。
		市内事業所数	2016年 7,226 件	2023年 - 件	2023年 7,310 件	-	KPIが安定的に測れないため、第3期計画では指標から外している。
		市内で希望する職場で就労できていると感じる市民の割合	2019年 47 %	2023年 46.9 %	2023年 49 %	-17%	当初値と目標値を下回ったため、第3期計画において取組達成へ向けた手法を検討し、推進を図る予定である。
		鎌倉市に住み続けたいと思う人の割合	2019年 86.9 %	2023年 90.7 %	2023年 88 %	345%	目標が達成できており、第3期計画ではKPIを94%に見直し更なる推進を図る予定である。
		地域におけるコミュニティ活動（自治会・町内会・NPO活動など）が盛んなまち」と感じている市民の割合	2019年 42 %	2023年 76.7 %	2023年 63 %	168%	目標が達成できており、第3期計画では市民アンケートの取り方とKPIの見直しを行い、更なる推進を図る予定である。
		鎌倉市を応援する気持ち（鎌倉市へのふるさと寄附金の額）	2019年 743,442 千円	2023年 2,055,233 千円	2023年 1,400,000 千円	200%	目標が達成できており、第3期計画ではKPIを2,500,000千円に見直し更なる推進を図る予定である。
		豊かな自然や自然的景観を大切に保全するとともに市民がみどりふれあえるよう積極的な活用を図っていると思う市民の割合	2019年 78.4 %	2023年 83.5 %	2023年 80 %	319%	目標が達成できており、第3期計画でも維持向上に向け、進捗を確認していく。
		市内のごみの焼却量	2019年 29,992 トン	2023年 22,484 トン	2023年 25,638 トン	172%	順調に進捗しており引き続き第3期計画で進捗を確認していく。
		リサイクル率	2018年 53 %	2023年 - %	2023年 55 %	-	KPIが安定的に測れないため、第3期計画では指標から外している。
		市の業務全体から生じる二酸化炭素排出量（エネルギー起源）	2017年 18,874 t-CO2	2023年 - t-CO2	2023年 16,709 t-CO2	-	2022年が8,751t-CO2であり、目標が達成できている。第3期計画でも維持向上に向け、進捗を確認していく。
2	「働くまち鎌倉」「住みたい・住み続けたいまち鎌倉」の実現	市内事業所における従業者数	2016年 68,800 人	2023年 - 人	2023年 69,600 人	-	KPIが安定的に測れないため、第3期計画では指標から外している。
		市内事業所数	2016年 7226 件	2023年 - 件	2023年 7310 件	-	KPIが安定的に測れないため、第3期計画では指標から外している。
		地域で子育てを支えるまちが実現していると感じる市民の割合	2020年 43.3 %	2023年 53.6 %	2023年 48 %	219%	目標が達成できており、第3期計画でも維持向上に向け、進捗を確認していく。
		まちづくりが計画的に進められ、生活しやすい市街地が形成されているまちだと感じている市民の割合	2019年 25.9 %	2023年 33.6 %	2023年 27.5 %	481%	目標が達成できており、第3期計画でも維持向上に向け、進捗を確認していく。

神奈川県鎌倉市 第2期SDGs未来都市計画：計画期間2021年～2023年

No	取組名	指標名	当初値	2023年実績	2023年目標値	達成度(%)	第3期計画（または独自計画）のKPIへの反映状況
3	共生社会の実現・共創関係の構築に向けた取組	地域で子育てを支えるまちが実現していると感じる市民の割合	2020年 43.3 %	2023年 53.6 %	2023年 48 %	219%	目標が達成できており、第3期計画でも維持向上に向け、進捗を確認していく。
		就労している障害者数	2019年 1,526 人	2023年 2,051 人	2023年 2,000 人	111%	目標が達成できており、第3期計画でも維持向上に向け、進捗を確認していく。
		平均寿命と健康寿命の差（男性）	2016年 1.72 歳	2023年 - 歳	2023年 1.68 歳	-	KPIが安定的に測れないため、第3期計画では指標を見直している。
		平均寿命と健康寿命の差（女性）	2016年 3.68 歳	2023年 - 歳	2023年 3.64 歳	-	KPIが安定的に測れないため、第3期計画では指標を見直している。
		消費生活センターに寄せられた消費生活苦情件数	2018年 1,970 件	2023年 1,547 件	2023年 1,800 件	249%	目標が達成できており、第3期計画でも維持向上に向け、進捗を確認していく。
4	鎌倉市の魅力に磨きかける取組	緑地保全契約の面積	2018年 53 ha	2023年 48.4 ha	2023年 53.8 ha	-575%	当初値と目標値を下回ったため、第3期計画において取組達成へ向けた手法を検討し、推進を図る予定である。
		指定文化財の数	2018年 610 件	2023年 608 件	2023年 620 件	-20%	当初値と目標値を下回ったため、第3期計画において取組達成へ向けた手法を検討し、推進を図る予定である。
		市内における自動車の旅行速度	2017年 18.1 km/h	2023年 17.4 km/h	2023年 20 km/h	-37%	当初値と目標値を下回ったため、第3期計画において取組達成へ向けた手法を検討し、推進を図る予定である。
		市内から排出されるごみの総排出量	2018年 58,623 トン	2023年 - トン	2023年 57,012 トン	-	KPIが安定的に測れないため、第3期計画では指標から外している。
		リサイクル率	2018年 52.5 %	2023年 - %	2023年 55 %	-	KPIが安定的に測れないため、第3期計画では指標から外している。
		市の業務全体から生じる二酸化炭素排出量（エネルギー起源）	2017年 18,874 t-CO2	2023年 - t-CO2	2023年 16709 t-CO2	-	2022年が8,751t-CO2であり、目標が達成できている。第3期計画でも維持向上に向け、進捗を確認していく。
5	市民の安全・安心な生活の基盤づくりに向けた取組	公共建築物の耐震化率（災害時の拠点となる施設）	2016年 96.4 %	2023年 97.6 %	2023年 100 %	33%	当初値を上回っているものの、目標値の達成には至っていないため、第3期計画期間中に取組を加速させていく。
		自宅周辺の自然災害リスクを知っている市民の割合	2020年 75 %	2023年 77.2 %	2023年 95 %	11%	当初値を上回っているものの、目標値の達成には至っていないため、第3期計画期間中に取組を加速させていく。

(3) 第2期SDGs未来都市計画の進捗評価結果を踏まえた総括

<p>●特筆すべき事業内容</p> <p>(1)「2030年のあるべき姿の実現へ向けた取組の達成状況」 12ある指標のうち、6指標が2030年目標値を達成しており、概ね進捗は良好と判断する。しかしながら、「No.1 市内で希望する職場で就労できていると感じる市民の割合」が前年度（44.3%）を上回りつつも当初値を下回った。</p> <p>(2)自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況 「持続可能な都市経営に向けた取組」については、達成度を測ることができる7指標のうち、5指標が目標値を達成している。他方で、目標値を達成できていない指標のうち、「公共建築物の耐震化率」については、当初値より向上しているものの、ここ数年進展がない。</p> <p>「鎌倉市の魅力に磨きかける取組」では、達成度を測ることができる全指標で目標値を下回っている。目標値を達成していない指標のうち、「緑地保全契約の面積（前年度：48.2ha）」については、契約者が山崎・台峯緑地の整備に伴う用地買収に応じたことから減少したのもあり、買収した土地については引き続き保全が担保されるため、一概にも保全を要する面積が減少したのではない。「指定文化財の数（前年度：608件）」は、新たに2件を指定したが、枯死した天然記念物2件が解除となったため、総数に変化はなかったものであり、新規指定は進んでいるため、文化財の保護は着実に進捗していると考えられる。「市内における自動車の旅行速度（前年度：17.4km/h）」については、渋滞対策の一環として実施しているパーク&ライドや鎌倉フリー環境手形など交通需要マネジメント施策の利用が伸び悩んでいることによると考える。</p> <p>「市民の安全・安心な生活の基盤づくりに向けた取組」では、いずれの指標も目標値を達成していない。そのうち、「自宅周辺の自然災害リスクを知っている市民の割合」については、当初値より向上しているものの、上昇率は低い。</p> <p>●成果</p> <p>「働くまち」「住みたい・住み続けたいまち鎌倉」について、達成度を測ることができる全指標が目標値を達成しており、特に「こどもまんなか宣言」の趣旨に賛同している本市として、「地域で子育てを支えるまちが実現していると感じる市民の割合」が目標値を達成していることは、子育て施策の効果によるものと判断する。</p> <p>「共生社会の実現・共創関係の構築に向けた取組」では、達成度を測ることができる全指標が目標値を達成しており、特に障害者2,000人雇用を目指してきた本市として、2023年に目標値を達成できたことは大きく評価できると判断できる。</p> <p>●課題</p> <p>「2030年のあるべき姿の実現へ向けた取組の達成状況」における「No.1 市内で希望する職場で就労できていると感じる市民の割合」は、時代や社会のニーズに応じた就労支援施策を検討する必要がある。</p> <p>「持続可能な都市経営に向けた取組」については、における「公共建築物の耐震化率」は、頻発している地震に備えるためにも、施策の優先順位を見極めながら、耐震化を進める必要がある。</p> <p>「鎌倉市の魅力に磨きかける取組」のうち、「緑地保全契約の面積」については、目標値には達していないものの、緑地保全契約者数は維持できていることから、今後も土地所有者の意向に沿って新規契約に応じていく。「指定文化財の数」については引き続き、新規認定を進めていく。また、「市内における自動車の旅行速度」については、観光混雑地域に交通誘導員を配置するほか、主要ターミナル駅などで公共交通の利用促進に向けた情報発信を展開し渋滞緩和に向けた施策を実施する。</p> <p>「市民の安全・安心な生活の基盤づくりに向けた取組」のうち、「自宅周辺の自然災害のリスクを知っている市民の割合」については、一層、市民への災害リスクの周知に努める必要がある。</p> <p>●今後の展望</p> <p>「働くまち」「住みたい・住み続けたいまち鎌倉」について、引き続き目標値を達成するためにも、多様化する子育てニーズに対応する施策の推進していく。</p>
--

(4) 有識者からの取組に対する評価

<p>・住み続けたいと思う人の比率、歴史的伝統が保存継承されていると思う人の比率が着実に増えているのは成果であると思われる。</p> <p>・リサイクル率が指標から外されているが、現在鎌倉で行われている諸プロジェクトを鑑みると、これこそがしっかりと組み込まれるべきではないか。リサイクル率が難しいとしたら、その他の指標でこの項目を埋めるべきである。また、渋滞解消緩和などについては以前から継続的課題であることから、パークアンドライドに止まらない新たな施策が必要なのではないか。</p>
--